

数字で見る地雷問題

地雷による犠牲者数（死亡者および怪我をした人）

年間およそ 15,000 人から 20,000 人（『ランドマイン・モニター報告 2002』による）

* 世界のどこかでおおよそ 30 分に一人が怪我をしたり死んだりしている。

対人地雷の数と種類

現在、約 100 カ国の武器庫に 2 億 3000 万から 2 億 4500 万個の対人地雷が蓄えられていると考えられている。

* 備蓄国：中国（1 億 1,000 万個）、ロシア（6,000～7,000 万個）、
アメリカ（1,120 万個）、パキスタン（600 万個）、
インド（400 万～500 万個）

国別埋設地雷数（上位 10 カ国）

1. エジプト（約 2,300 万個）
2. イラン（約 1,600 万個）
3. アンゴラ（約 1,500 万個）
4. アフガニスタン（約 1,000 万個）
5. 中国（ " ）
6. イラク（ " ）
7. カンボジア（約 600～700 万個）
8. ベトナム（約 350 万個）
9. ボスニア・ヘルツゴビナ（約 300 万個）
10. クロアチア（ " ）

対人地雷の種類

およそ 300～400 種類があるといわれている。（別紙参照）

『対人地雷全面禁止条約』（1999年3月1日発効）

署名国数・・・146カ国

締約国（加盟国）数・・・131カ国

（2003年1月24日現在）

* アメリカ、ロシア、中国、インド、パキスタン、韓国、北朝鮮、
モンゴル、ベトナムなどは未加盟。

地雷の歴史と地雷廃絶をめぐる世界の動き

地雷の歴史

南北戦争(米、1861～1865)で、現在のタイプの地雷が初めて用いられた。

第1次世界大戦(1914～1918)で戦車に対する典型的な防御兵器として発達。(対戦車地雷)

第2次世界大戦(1941～1945)のヨーロッパでは、およそ3億個の地雷が使用され、都市や陣地の防衛に重要な役割を果たした。このとき対戦車地雷の除去作業を妨げるために小型地雷がその周辺におかれた。これが対人地雷のルーツとされる。

ベトナム戦争(1960年代～1970年代初め)のときに地雷が大きく変わった。人間を殺すのではなく、大人の片足程度を吹き飛ばし、大怪我をさせるように設計された直径約7cm、重さ約150g、価格が1ドル程度の対人地雷が多く使用された。その後様々な対人地雷が製造された。

廃絶に向けての歩み

1992年10月 ICBL(地雷禁止国際キャンペーン)誕生

1996年10月 「対人地雷全面禁止に向けた国際戦略会議」開催
(通称オタワ会議)オタワ・プロセスが始動。

1997年9月 対人地雷全面禁止条約(通称オタワ条約)成立

12月 オタワ条約調印式(オスロ)

日本は小淵外務大臣がこのとき署名

ICBL ノーベル平和賞受賞

1999年3月 オタワ条約発効

10月 第1回オタワ条約締約国会議開催、以後毎年9月に開催されている。

2003年2月 日本政府が保有する対人地雷の廃棄処分を完了

2003年9月 第5回オタワ条約締約国会議開催(バンコク)

日本は議長国を勤めた。

オタワ条約(対人地雷全面禁止条約)の重点

三原則 製造禁止、輸送移送禁止、保持禁止

その国に貯蔵している地雷を4年以内にすべて廃棄すること。使用・開発・生産・取得・貯蔵・保有・直接間接の移転を一切行わない。

その国に埋まっている地雷を10年以内にすべて除去すること。

参加する国は、進行状況を毎年国連事務総長に報告し、地雷除去や犠牲者支援の援助をする義務がある。

対人地雷の種類

地雷の種類

対戦車地雷・・・戦車の破壊を目的とする。

5kg 以上の火薬を含み、通常 100kg 以上の重量をかけないと爆発しない。

対人地雷・・・人間の殺傷を目的とする。火薬の量は 20g ぐらいから 500g ぐらいのものまで様々にある。3kg～5kg の重量で爆発する。

対車両地雷・・・対戦車地雷より軽い重量に反応し、対人地雷より火薬の量が多く救急車、四輪駆動車、トラックなどの民間車両に大きな脅威となっている。

爆発の起こり方による分類

圧力式・・・上から直接圧力がかかると爆発する。対人地雷の多くがこのタイプ。地表または地表近く数 cm の深さに埋められ、500g～10kg の圧力がかかると爆発する。

張力式・・・信管から伸びたワイヤーが足に引っかかって引っ張られるとピンが引き抜かれ爆発する。

圧力解除式・・・かかった圧力が解除されると爆発する。あまり見られない。

作動方式による分類

爆風地雷・・・踏むと爆発し、爆風の威力で被害をもたらす最も一般的な対人地雷。近代的なものはプラスチック製で起爆装置、スプリング以外金属を含まないので、探知や処理に大変な危険と手間、時間がかかる。

破片式地雷・・・爆発の瞬間、爆風の衝撃により外側の金属ケースが細かく分断されたり、内蔵されている金属片や金属ボールが弾丸の 2 倍の速度で飛び散り、半径 10～50m 内の人に致命的な打撃を与える。

散布型地雷・・・空中散布型のこの地雷は飛行機やヘリコプターなどから投下、またはミサイル、ロケットなどから発射される。ソ連製の PFM 1 はその形状から“蝶々型地雷”と呼ばれる。1980 年代アフガニスタンでばら撒かれた。

このほか除去防止の目的で作られたものも様々ある。

カンボジアの歴史

最古の人間の痕跡・・・BC4200 年頃の人間の生活の跡がカンボジア北西部らアン・スピアンの洞窟で見つかっている。

802 年・・・シャヴァルマン二世即位、アンコール朝創始。

889 年・・・ヤショーヴァルマン一世即位、アンコールの地を王都と定める。以後約 550 年間にわたり都城と寺院が建設され続けた。

1113 年・・・アンコールワット造営開始

1181 年・・・アンコールトム造営開始

1431 年頃・・・アンコール王都陥落

15 世紀以降・・・西をシャム、東をベトナムに蚕食されていく。

18 世紀後半以降・・・シャムとベトナムの攻撃によって国家滅亡の危機に陥る。実質的にはシャムとベトナムの両属状態に置かれた

1863 年・・・フランスと保護国条約を結びフランスの支配下に

1941 年・・・シアヌーク国王即位。

1953 年 11 月 9 日・・・完全独立。

フランスは植民地時代を通じて“伝統”を温存。社会経済開発、近代的教育制度の導入を積極的には進めなかった。

1970 年 3 月右派ロン・ノル將軍によるクーデター

ベトナム戦争のカンボジアへの拡大を招くこととなった。

1973 年以降・・・カンボジア人勢力同士による内戦の激化

1975 年 4 月 17 日・・・ポル・ポトによるクーデター成功

ポル・ポト派は急進的な共産主義政策を断行 都市の無人化、農村への強制移住、市場・通貨の廃止、労農・政治教育以外の学校教育の廃止、宗教活動の禁止など従来の伝統的価値観や社会体系を無視した政策を断行。何万という医師、教師など知識人やその子ども達までも殺された。

1978 年 12 月下旬・・・ベトナム侵攻

1979 年 1 月・・・ポル・ポト派はタイ国境の山岳地帯へと逃げた。

対国境地帯に大量のカンボジア難民

1982 年以降・・・二重政権状態で内戦が長期化

1987 年から解決に向けての動き・・・紛争当事者会議と国際会議

1991 年 10 月 23 日・・・パリ和平協定の締結

1992 年 3 月～1993 年 9 月 UNTAC (国連カンボジア暫定統一機構) 活動

1993 年 5 月・・・総選挙は成功、各派の武装解除には失敗

1998 年：ポル・ポト死亡 (4 月)、総選挙 (7 月)、新政権発足 (11 月)